

令和7年度 同窓会総会 報告

令和7年8月3日(日)、エポカ21において、同窓会総会が開催されました。80名を超える参加者を得て、すべての議事について、ご承認をいただくことができました。また、今回の役員改選で副会長を退任される、佐藤一様、佐藤澄隆様、佐々木あさ子様に感謝状を贈呈しております。

総会に続いて、昭和30年3月卒業 石川陸郎様より、「我が築館高校 素晴らしき同士と思い出の日々」と題してご講演をいただきました。終戦からの復興やご自身のおいたち、築館高校での思い出、仙北鉄道での経歴など、盛りだくさんのご講演でした。まとめとして、健康が大切なこと、人生を楽しく生きることの大切さもご教示いただきました。

その後懇親会が開催され、同窓の皆さんと旧交を暖め、盛会裡に終了することができました。

◆総会資料、会報「栗峰 No20」の郵送をご希望の方は、送付先の住所とお名前を下記アドレスにお知らせください。

tukiko-dosokai@od.myswan.ed.jp



左から佐々木あさ子様、佐藤澄隆様
渡邊会長、佐藤一様



講演講師 石川陸郎様

◆来年の当番学年は、33回生、43回生、53回生、63回生の皆さんになります。ご協力よろしくお願い致します。

同窓会長挨拶

宮城県築館高等学校 同窓会会長 渡邊一正

皆さんおはようございます。本日はお忙しい中、お盆前の日曜日の貴重な時間をさいいただき、旧築館高校（1901年 明治34年創立）と旧築館女子校（1936年 昭和11年創立）が統合して20周年の同窓会の総会にご出席をいただき誠にありがとうございます。合わせて、築館高校目黒校長先生、同窓生でもあります、佐藤栗原市長にもご臨席を賜り、感謝申し上げます。また、東京支部からは三好支部長はじめ、同窓生の皆さん、仙台支部からは笠原支部長はじめ、同窓生の皆さんにご参集をいただきありがとうございました。心から御礼申し上げます。また、本年の総会の実行委員としてご協力いただきました。32回生、42回生、52回生、62回生の皆さんに今までいろいろご苦勞をおかけしました。心から敬意を表します。ありがとうございました。

早いもので統合して20年。統合当時はいろいろな苦勞もありましたが、歴代の校長先生を始め、多くの先生方のご協力ですばらしい新たな宮城県築館高等学校となりました。今後ともなお一層の発展を願うものです。

申し遅れましたが、私は宮城県築館高等学校の同窓会会長を仰せつかっております、渡邊一正です。26回生昭和49年3月卒業で70才であります。どうぞよろしくお願い致します。

さて、昨今、高校の無償化が叫ばれています。公立も私立も学費がかからない時代となります。全国的には今の子どもたちは公立高校ではなく、私立高校に入学する数が多くなっております。当栗原地域においては、毎年4割近い子どもたちが公立私立とわず、他地域の学校に通っております。ますます少子化が進んでいる時代背景の中で、地元の高校が淘汰されていくのは目に見えています。地方創生と言われている時だからこそ、地域の高校をより以上に魅力ある、他の地域から子どもたちが集まるような環境を構築しなければなりません。

この栗原ですばらしい資質をもって伸び伸びと育った子どもたちが、せめて高校は地元の高校を卒業して巣立って行ってほしいものです。そして将来、世界にはばたく人、日本の未来を担う人、地元の活性化に力を注ぐ人、そういった人材になり得ることを確信しております。全国に3万5千余名の同窓生の先輩方がそれぞれの立場で母校に自信と誇りを持って活躍されています。我が同窓生は、幅の広い人間性を持った方々であります。イデオロギーに関係なく、保守でもなく、リベラルでもなく、それぞれの人生観を持って幅広い視野の中で生きています。そういう多様性を持った同窓生を育てたのは栗原の地であり、築高の校風であると思います。こういう校風を持った伝統校である我が母校を今以上に優秀な文武両道で人間性豊かな栗原人を輩出する高校にしようではありませんか。

先生方も精一杯頑張ってくださいます。どうか皆さん、これからも母校の発展のためご尽力いただきますよう、心からお願い申し上げます。

最後となりましたが、本日ご出席をいただきました皆様方の今後のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げ、開会の挨拶とします。本日は誠にありがとうございました。